

# Probiotics Topic

## ヘリコバクター・ピロリ菌除菌療法の工夫

(5 剤併用療法 + 防御因子製剤 + 整腸剤)

医療法人社団 晴博会 あんこうメディカルクリニック 院長  
医学博士 安康 晴博

### 【治療方針と解説】

近年 *Helicobacter.pylori* (*H.pylori*) の除菌によって胃、十二指腸潰瘍の再発がほぼ抑制されることが証明され、最近では胃癌の発生を予防できるかどうか注目が集まっています。アジア太平洋コンセンサスガイドラインでは、胃癌リスクの高い地域での、リスク軽減のために *H.pylori* の診断と治療を推奨しています。*H.pylori* 除菌は萎縮性胃炎の進展の予防にも有効です。私は、将来わが国から胃癌が無くなる日を夢見て日々診療をしています。当院では '94) 平成 6 年から本格的に *H.pylori* の各種除菌治療を開始し、試行錯誤を繰り返しながら改良を加えてまいりました。今では除菌成功者は 1000 例を超えるに至りました。

現在、一次除菌 (3 剤併用療法)、二次除菌 (メトロニダゾール)、他医での一次除菌不成功例においては保険診療、または患者さんの同意を得て自費診療 (5 剤併用療法変法：健康保険適応なし) で行っています。豊富な除菌経験により、5 剤併用療法変法の除菌成功率はほぼ 100% (最近 500 例は 100%) です。除菌効果判定は除菌終了日から 8 週間以降に空腹時尿素呼気試験で行っています。

除菌治療をする前に、悪性病変を正確に鑑別診断しておくことが重要です。また、除菌治療が終点ではありません。除菌成功後、胃粘膜は著しく綺麗になりますが、非感染者 (生まれてから 1 度も *H.pylori* に感染していない者) とは明らかに異なっており、胃癌発生のリスクは依然として高いと考えられています。除菌を実施する患者さんには、除菌成功後少なくとも年 1 回は、長期にわたって (少なくとも 10 年間以上) 上部消化管内視鏡検査を受けて戴くように話をしています。除菌の重要性、必要性を良く理解し、「ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌をしたい」と強く決心した患者さんだけに治療を施行しています (服薬コンプライアンスが良い為)。また、抗生剤による腸内細菌への影響を最小限にするため、治療方針が決まり次第整腸剤、ヨーグルト類、納豆などの発酵食品を毎日摂取して頂いています。治療開始の際はまず、禁煙して頂きます。

### 【推薦処方】

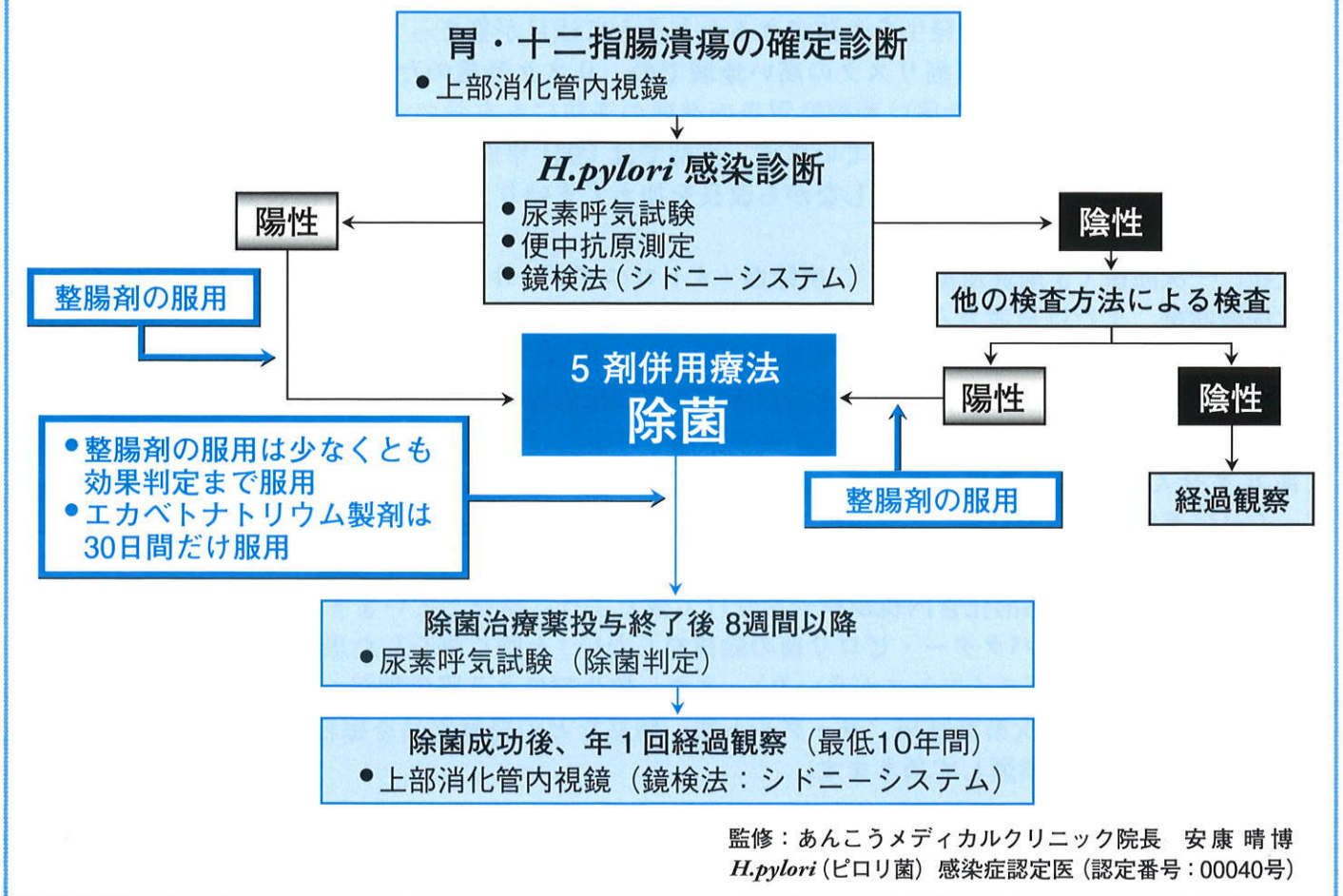
① ラベプラゾールナトリウム製剤 (20mg)	2 錠分 2
② ミノサイクリン塩酸塩製剤 (100mg)	2 錠分 2
③ 次硝酸ビスマス製剤 (1g)	2 包分 2
④ エカベトナトリウム製剤 (1.5g)	2 包分 2
⑤ アモキシシリン水和物製剤 (250mg)	6 錠分 3
⑥ メトロニダゾール製剤 (250mg)	3 錠分 3
⑦ ビオスリー®配合散 (1g)	3 包分 3
⑧ ビフィズス菌製剤 (1g)	3 包分 3

除菌終了後 30 日間は④を服用。除菌判定日までは (最低 8 週間) 腸内細菌叢リハビリのために、⑦、⑧を服用していただいています。

私は過去の経験から除菌率が低下するため、喫煙者には除菌をしない方針としています。自力で禁煙ができない場合は、禁煙外来でバレニクリン酒石酸製剤を処方して禁煙治療をして貰います。禁煙成功の判断はスモーカーライザーで呼気中CO濃度を測定して行います。除菌と禁煙を同時に開始することは、避けた方が良いと考えています。

なぜなら、ニコチンの離脱症状を除菌の副作用と勘違いして除菌治療を中断してしまうことがあるからです。禁煙は除菌成功後も、ご家族から喜ばれるため、一生続けるように指導しています。除菌治療の説明に際しては、除菌薬それぞれが、なぜ必要なのか、どのような薬効を期待しているのか、副作用はどんなことが起こり得るのかについて説明しています。服薬コンプライアンスを良くする為、それぞれの患者さんの生活リズムを乱さない服薬時間を割り出し、服薬は時間厳守としています。処方院外薬局で1週間分の薬を全てビニール袋に小分けして患者さんに渡しています。患者さんは袋に記載されている時刻を毎回確認し、袋の中身を全て服用して貰います。なお除菌期間中は除菌治療だけに専念して貰います。出張や会食、旅行中などの予定がある場合には施行せず、普段の常用薬は生命に関わると思われる物のみ併用して服用を許可しています。

## ピロリ菌除菌療法の流れ



生菌整腸剤 -- BIO THREE -- BIO THREE 薬価基準収載

ラクトミン・酪酸菌・糖化菌配合

**ビオスリー**® 配合錠 配合散

活性生菌製剤

◆「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照ください。

発売元 東亜新薬株式会社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-2-11 http://www.toashinyaku.co.jp 製造販売元 東亜薬品工業株式会社  
資料請求先 東亜新薬株式会社 TEL 03(3347)0770 FAX 03(3347)0780 販売 鳥居薬品株式会社

2009年10月作成